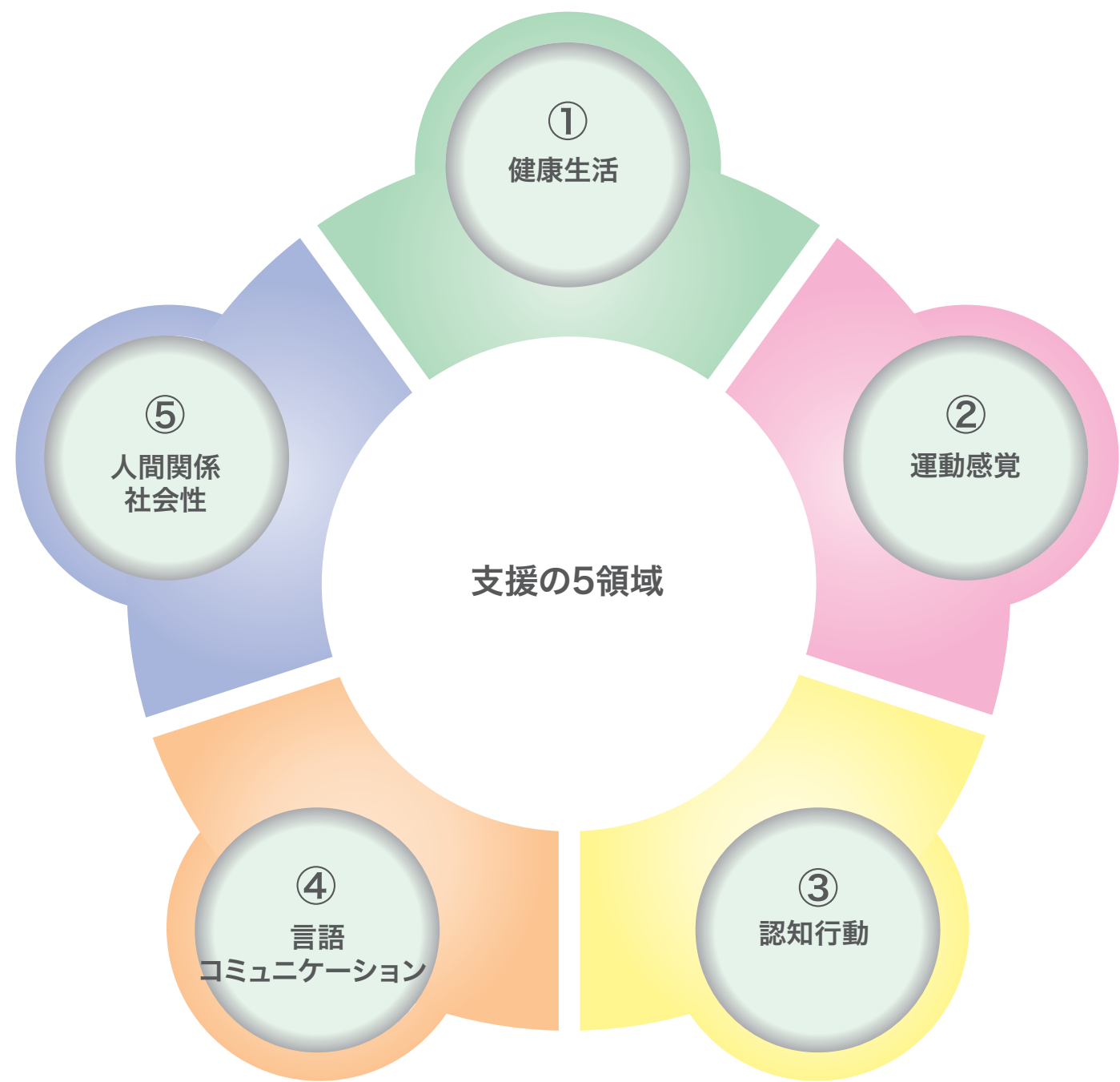




笑顔と可能性の基礎

- ① 生活における基本的な動作スケジュール管理
・食に対する向き合い方
- ② 姿勢維持や適度な運動能力の向上
保有する感覚の総合的な活用
- ③ 体験を通して認知と行動の発達と習得
形成物の機能・属性・形・色・音の変化
空間・時間等の概念の理解
処理能力の向上
- ④ その場に応じた言動・行動・関わり
コミュニケーション能力の習得・向上
- ⑤ 人との関わり方、自己理解と行動のコントロール
・集団活動への参加
・仲間づくり
・ルールを理解

御南事業所 インクルージョンへのとりくみ

- ・地域イベントの参加
- ・社会福祉協議会等の出店
- ・地域との交流

パステル 御南事業所
支援プログラム【一例】

例	主に関わる 領域	ねらい	配慮事項
リスニング トレーニング	②③	・順番を守り、人前での発言等ができるようになる	・各々に合った無理のない範囲を提示する
	③④	・ワーキングメモリを鍛える(集中力・読解力)	・その物語に関する問題を提示し振り返りができるよう
	②④	・さまざまな言葉に触れ、語彙力を増やす	・促しをする(記述・3択等変動する)
	④⑤	・その背景にあるものへの想像力を広げる	・絵を見せながら理解しやすくする
	③④	・正しい姿勢の保持	・周りをみながら行う
クッキング・工作	④⑤	・さまざまな感触・匂い等の五感で感じる	・季節を感じられる食材・材料・かたちを準備する
	②③④	・説明を聞きながら行動できる処理能力の向上	・理解できているか確認をしながら進める
	③④⑤	・物の扱い方を知り危険が伴うことが分かる。	・ケガ・火傷などに配慮する
	②③	・完成した時の達成感や楽しく食べる喜びを感じる	・一緒に喜びを感じられるように配慮する
	①③⑤	・正しい衛生管理ができるようになる	・その場面に必要な声掛けをする
集団遊び	④⑤	・体力づくり	・無理のない範囲で行う
	②③④	・集中力の強化	・無理のない範囲で行う
	④⑤	・動体視力の向上	・個々のレベルに配慮する
	②③④	・お友だちとの協力や	・正しい応援の仕方を助言する
	②③④⑤	・ゲームによって生じる感情表現の習得	・勝敗を受け止めれるように寄り添う
体験	②③④⑤	・体力づくり/体幹を鍛える	・無理のない範囲で行う
	④⑤	・ヘルプサインを自分なりの方法発信することが出来る。	・個々のレベルに配慮する
	②③④	・お友だちと協力をする。	・正しい応援の仕方を助言する
	②③④⑤	・上手くできた時の喜びやできない時の悔しさを表現できるようになる	・その場面に応じた感情表現と一緒に表す事が出来るように寄り添う
	—	—	—
ビジョン トレーニング	①②③④	・ワーキングメモリを鍛える(板書等)	・みる時間と書く時間を決める
	②③	・目でみて得た情報の処理能力向上	・個々に合ったレベルの提供をする
	③④	・説明を聞き理解し行動できる処理能力の向上	・簡潔な説明をする
	③⑤	・勉強が嫌いにならないようになる	・遊び感覚でできる環境づくりをする
	①②③	・集中力の向上	・スモールステップに気を付ける
ことば遊び	②③	・ワーキングメモリを鍛える(語彙力を増やす)	・頭文字のヒント等を出しながら考えれるようにする
	②③④	・順番を守れるようになる	・高ぶる気持ちが落ち着くように配慮する
	②③④	・人前での発表ができるようになる	・単独発表が困難時にはスタッフと一緒に発表をする
	②③④	・ひとの話が最後まで聞けるようになる	・周りをみながら参加するように声掛けをする
	②③④	・想像力がつくようになる	・順番がくるまでに考えるように声掛けをする
ディスカッション	③④⑤	・人前に出る緊張感に慣れる	・うまい下手は関係ない事を伝える
	③④⑤	・人の意見も聞き、色々な考えがある事が分かる。	・一緒に考え促していく
	③④	・順番を守れるようになる	・高ぶる気持ちが落ち着くように配慮する
	②③④	・仲間意識を強める	・何人かと一緒にする機会を作る
	②③④⑤	・自分で選ぶ力を身につける	・自発的が困難な時には選択肢を出す

事業所名	パステル 御南事業所	支援プログラム（参考様式）	作成日 令和 7年 3月 5日
------	------------	---------------	-----------------

法人(事業所)理念	「挑戦」「体験」を通じて個々の新しい可能性を開き、集団生活において必要な協調性を大切に育んでいきます。		
支援方針	・コミュニケーション能力や協調性が持てるよう、積極的な社会参加や活動を取り入れ、世界観が広がるよう育み支援して行きます。 ・自分に自信が持てるよう様々な活動を取り入れ、考える力・前向きな発想・気持ちの切り替え等、生きていくに必要な力が養えるよう支援して行きます。		
営業時間	9時 00分から 18時 00分まで	送迎実施の有無	☒ あり ☐ なし

支 援 内 容

本人支援	健康・生活	・個々に合った健康的で自立した生活が送れるよう支援して行きます。 ・手洗い、うがいや身だしなみチェック、災害時避難訓練、危険認知スキル、感染症予防の獲得。 ・戸外活動でのマナーを守り、安全に生活する。 ・食育活動を通じ、食に対する意欲や関心を引き出す。 ・日常生活における動作の獲得。
	運動・感覚	・遊びや活動の中で、指先訓練などを取り入れた、手先の刺激・感覚・動作活動。 ・体を動かし体感を鍛えたり、視覚・運動感覚の統合・協調性の向上を図ります。 ・工作やクッキングなどの指先トレーニングや力加減の認知・獲得向上。 ・様々な感触を楽しむ感覚遊び、体のバランス力の入れ方の獲得や向上。 ・姿勢や運動、体の使い方などの基本的運動機能の向上。体幹・ビジョントレーニングの実地。
	認知・行動	・個々に合った認知指導をしていきます。(色・形・大きさ・空間認知・数量等の概念に合わせた、必要な知識を深める。) ・急な予定変更への対応や気持ちの切り替え方の習得。・集団活動での適切な行動の習得。 ・スケジュールに合わせた認識形成の向上及び、相手の気持ちを知り慮る状況判断能力の向上。
	言語 コミュニケーション	・個々に合わせたコミュニケーション能力の向上及び習得を高めていきます。 ・言語の形成と活用。 ・具体的な物や行動の名称の意味の結びつける。 ・言葉の習得。(絵カードや現物を使った言葉の認知) ・日常生活の他者との関わりを通じて、挨拶などの円滑なコミュニケーションの向上。 ・ジェスチャーや筆談など、非言語的コミュニケーションの表出の習得。
	人間関係 社会性	・公共の場や社会性のマナーの習得及び実践での円滑な人間関係の習得と実践を通じ向上して行きます。 ・物や人に興味を持ち、模倣でのスキルの習得。 ・順番・交代・役割・マナーなど手段やルールを理解。 ・社会に適應するために必要な情緒・スキルの習得。 ・手順やルールを理解。 ・気持ちのコントロールや感情の高ぶりに対する対処法の習得・向上。 ・適切な他者との距離の取り方などの自己理解や他者理解。
家族支援		・事業所での活動や様子をお伝えすると共に、今後の活動や方針についての相談・提案をしていきます。 ・ご家庭での困りごとの相談など助言や協力を行います。 ・面談など随時対応いたします。
移行支援		・家庭や関連機関と連携をとり、進級・進学等の場面に合わせて安心して生活を送れるよう支援して行きます。
地域支援 地域連携		・コミュニケーション能力や協調性が持てるよう、積極的な社会参加や活動を取り入れ、世界観が広がるよう育んでいきます。
職員の質の向上		・事業所内研修・福祉機関への訪問勉強会・事業所外研修 ・従業者全員が情報共有を行い、個々の成長にあった療育活動を行っています。
主な行事等		・季節に応じた行事。 ・避難訓練・ホースセラピー・農作業・スーパーなどでの販売を通じ、社会への参加。クリーン作戦や地域センターでの地域交流。

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	パステル御南事業所		
○保護者評価実施期間	令和7年2月1日 ～ 令和7年2月28日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	53	(回答者数) 36
○従業員評価実施期間	令和7年2月1日 ～ 令和7年2月28日		
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月6日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	体験を通じての成功体験や、協調性の習得ができ、自分たちの作ったものをスーパーなどに出荷し社会情勢を知れる。	失敗を恐れず挑戦できる場所である事を周知し、子どもたちのやりたい気持ちを汲み活動を取り入れている。	地域や多職種からの情報収集を取り入れ、将来に向けての練習を行っている。
2	自分で生活していく為のスキルの習得。	自立に向けた集団での身の回りの片付けなどが出来る。 (掃除・皿洗い・草抜き・ゴミ集めなど) 相手に感謝の意持ちを持ち社会性を身につける事が出来る。	ここに合わせた仕事の配分を行い、スモールステップで成功体験を増やす。
3	公共の場でお出掛けを通じてTPOの向上が目指せる。	・公共の場への参加を定期的に行い、マナーや決まりを守れるよう体験しながら覚えていく事が出来る。	・偏らないよう、公共の色々な場での活動を取り入れている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	バリアフリーでない為、重心の方や足の弱い方は難しい場面がある。	賃貸なので、改造自体は難しい為、右のような対応を行っている。	滑らないよう会談に滑り止めマットを敷いたり、職員が階段の登り降りにはつくようにしている。
2	保護者会や保護者同士の連携	駐車場や場所の確保が難しい	保護者会でなくても、保護者の方と子どもさんとご一緒に参加出来る体験を考えていく
3	中等部・高等部の方に対して、就労へ向けての支援がまだ乏しい。	就労に向けて必要な知識を付け、社会へ出るための支援していく。	就労支援施設への見学や相談を開催してもらい、やり方を事業所なりの方法で取り入れていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

(別紙4)

事業所名： パステル御南事業所

公表日： 令和 7年 3月 24日

利用児童数： 53人 回収数： 36

		チェック項目	はい	どちらとも いいえ	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	23	12	1		見る機会余りない為分からない。	スペースの紹介などを今後、お便りにてお知らせ致します。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	25	11				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境（※1）になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	26	8	2		大人でも危ないと感じる箇所がある。	危ないと感じる箇所には、職員が付き添うようにしています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	28	8				
適切な 支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	30	6				
	6	事業所が公表している支援プログラム（※2）は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	31	3		2		ホームページへ載せております。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）（※3）が作成されていると思いますか。	34	2				
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	33	3				
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	32	4				
	10	事業所の活動プログラム（※4）が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	30	5		1	パステル事業所の1番いい所だと思います。	今後も職員一同、精進してまいります。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	15	16	4	1		地域の行事に参加し、活動しています。

保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	32	3		1		
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	36					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング(※5)等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	25	11				
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	29	6		1	話をしてくださる職員とそうでない職員の方がいらっしゃる。	どの職員でもお伝えできるように周知していきます。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	29	6		1		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	30	6				
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	10	18	7	1	活動のお手伝いの機会がありましたら参加してみたいです。	保護者との交流会の機会を設けられるように色々なを考えて行こうと思っています。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	26	9		1		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	31	4		1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	31	4		1	普段の様子などが分かるInstagramや新聞などをとても楽しみにしている。	定期的にこれからも発信していこうと思っています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	31	3		2	個別でも注意してもらわれているのがよく分かる	
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	22	13		1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	21	15				
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	26	10				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	20	16				

満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	31	5				
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	28	8			楽しみにしている様です。	ありがとうございます。これからも楽しく通所して頂けるよう色々な活動を行って行きます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	33	3			工夫されてるのがよく分かります。	ありがとうございます。満足して頂けるように支援していきたいと思っております。

- ※1「本人にわかりやすく構造化された環境」とは、こども本人がこの部屋で何をするのかかわかりやすいよう、机や本棚の配置などを工夫することです。
- ※2「支援プログラム」とは、事業所における総合的な支援の推進と事業所が提供する支援の見える化を図るため、事業所で行われている取組等について示し、公表することが求められています。
- ※3「放課後等デイサービス計画（個別支援計画）」は、放課後等デイサービスを利用する個々のこどもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援方針や支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成し、保護者等への説明を行うとともに同意を得ることが義務付けられているものです。
- ※4「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。こどもの発達の状況や障害の特性等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されていま。
- ※5「ペアレント・トレーニング」は、保護者がこどもの障害の特性やその特性を踏まえたこどもへの関わり方を学ぶことにより、こどもの行動変容することを目標とします。

公表

事業所における自己評価結果

(別紙5)

事業所名： パステル御南事業所公表日： 令和 7年 3月 24日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	3	バリアフリーではないので、点検を行い危険な個所の改善や階段などは職員が付くようにしています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		情報共有や個々の状態に合わせた支援が出来るよう毎日ミーティングを行っています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○			

適切な支援の提供

11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○			
13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			
16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	2		
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			

	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ、支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		状況に合わせて児童発達支援や保育園へ見学に行かせて頂いております。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		他県へ転勤などで新しい環境になる際は次の場所でも困らないように状況報告書をお渡ししている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		年間3～5回程度、地域交流センターで地域の活動に参加させてもらったり、お礼に洗い物等をしています。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			予定が重なり毎回ではない為、参加回数を増やせるよう対処していきたい
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。				
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。				

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。				
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。				
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○		場所や、駐車場の問題もあり、保護者会としての活動は行っていないが、一緒に参加出来る行事など考えている。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		鍵付き書庫に保管をしています。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		その時々状況に合わせ、言葉足らずな職員の送迎の際は、メモを書いたり連絡を入れたりしています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			回数が少ないので、参加していただける機会を増やしていく。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		曜日が固定されないよう、ずらしながら避難訓練を実地している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			

非常時等の対応

49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。				
50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。				
51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。				
52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。				
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。				
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。				